

PTA役員のお仕事量や頻度について

※前提として、「年度」「役職」「時期」「メンバー」により活動内容に変動があります。

(役職間、役員間で調整しながら活動を進める為。)

令和4年度→コロナ禍：係委員会活動はほぼ通常通り、イベント系はほぼ中止。

(+地域環境連絡協議会担当校と開校80周年に当たり、変則的な対応や活動がありました。)

令和5、6年度→コロナ影響は終了。係委員会活動は通常通り、イベント系は多くが復活。

役員同士が互いの事情を尊重しながら、デジタルツールの活用などによる活動の効率化も進めてきました。

※細かい活動内容については『PTAのしおり』をご一読ください。（祖師谷小学校ホームページPTAのページに掲載）

仕事をしている人の割合	令和5年度			令和6年度		
		本部	校外		本部	校外
	フルタイム	4名		フルタイム	6名	4名
	フルでは無いが仕事あり	3名	2名	フルでは無いが仕事あり	1名	1名
前年からの変化	コロナ禍からほぼ正常化し、多くの活動が復活する中で、規約に定める「子ども達の幸福な成長」への貢献度を損なわない範囲で、将来を見据えた持続可能な活動への変革を積極的に試みました。 【活動の効率化や負担軽減に向けた取り組み】 PTA会費の銀行振込の導入／Googleフォームの活用拡大 非対面による活動の継続（PTA総会の書面開催など）／ オンライン立候補方式での次年度役員選考の導入 【令和5年度での実施を見送った活動】 ペルマーク回収／牛乳パック（テトラパック）回収／ インクカートリッジ回収／給食試食会／家庭教育学級	役員の多くが共働き・フルタイム就労ですが、の中でも互いにその時々の事情を尊重し合って必要な活動を進めたほか、以下に記載したような様々な改革や活動の工夫を行っています。祖師谷小のPTA役員は、「共働き・フルタイム就労であってもできる活動」へと着実に変化を遂げつつあります。				

【役職ごとの活動内容・頻度】

【R6年度】	・会長、副会長…当年度の活動の企画・検討がメイン。三役全員がフルタイム就労ですが、いかなるピークのときも、仕事や家族との予定を互いに尊重して活動しています。厳格な役割分担にとらわれず、「三役の三人（会長・副会長）の誰か、できる人が、できることをやる」ことにより、仕事が多忙な中でも、通常の活動と様々な改革を並行して行うことができました。お仕事のピークは春（4月～6月頃）で、三役間や他の役員とのLINEでのやりとりが毎日生じた時期もありましたが、それ以降は週に数回程度（1回当たり数分）、打ち合わせや作業でまとまった時間をとるのは1か月1回程度です。 ・書記…PTA会員名簿の更新、総会資料のとりまとめ、情報交換会の議事録作成など。学校での作業（印刷、備品の管理、個人情報を含む書類の管理等）は相談しながら対応しています。資料作成の多い3-6月頃が繁忙期です。ミマモルメでの配信が増え、紙ベースの印刷は減ってきておりますが、個人情報を扱う業務は学校での対応になります。
	・会計…予算案、手紙、資料、伝票などの作成は自宅作業が可能です。これらの印刷作業は学校で実施します。会費の集金・活動費配布等の現金受け渡しや経費精算の際は学校で作業します。入出金、記帳、名義変更等の銀行対応があります。年初（3-6月頃）と年度末の年2回の監査時期は活動頻度が上がります。 ・校外…登校時の見守りバトロール（月1回）、青少年地区委員会、世小P校外分科会への出席、地域のお祭りの手伝い、ストラップ・防犯ポスターの配布、1・3年生の交通安全教室参加などの活動及び、校外Timesの発行や簡単なアンケート集計等の作業があります。校外役員は5名いますので、担当業務を決め分担することで一人一人の活動時間を最小限にしています。関連団体との会合は平日昼間が多いのですが、必ず出席する必要はありませんし、その日出席出来るメンバーが1人～2人で対応するようにしています。メンバー内での連絡は全てLINEでを行い、活動ごとの報告や記録はGoogleスプレッドシートで共有しますので、対面でのミーティングなどで時間を取られることはありません。

★重要★ ～役員活動についてぜひお伝えしたいこと～

- PTA活動に「決まったやり方」はありません。「その年にできるやり方」「その年のメンバーがやりやすい方法」で協力し合いながら活動しています。
- 役員になるにあたって、家庭や仕事において一定程度、時間の調整が必要となることは紛れもない事実です。
- 一方で、PTAを通じた学校・地域社会との接点が自分を成長させ、子どもとの関わり方や、仕事のスキルへの還元を実感している役員がいることも事実です。
- PTA役員になるにあたり、特別なスキル・経験・人脈などは必要ありません。
- PTAに対する疑問や厳しいご意見を持つ方が役員に立候補し、様々な改善の原動力として活躍されることも多いです。
ぜひ積極的にご検討ください。